

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第217号
1
21. .25

表紙

・お米を通して食と環境を守る運動をこれからも一緒にすすめよう

P3

・活動報告
秋のおさそい推進月間取り組み／地域チャレンジ／消費材モニター企画
・組合員紹介・生産者紹介

P2

・ウィズコロナ時代を乗り越えるために改めて見直した共同購入
～コロナ禍を経験し、私たちが行動すること～

P4

・エスコープ大阪2020年度方針
・山村瑞子さんの詩
・理事会報告・おたよりネット・編集後記



お米を通して食と環境を守る運動を これからも一緒にすすめよう

無農薬米を求めるのは
家族のためだけではなかった

1989年に結成された「針江げんき米栽培グループ」は、「平成の名水百選」に選ばれた生水(しょうず)という湧き水に恵まれた、滋賀県高島市新旭町針江地区の米農家9名で構成されています。消費材の『針江げんき米』は環境にやさしい農業を実践し、農薬の使用を除草剤1回だけに抑え有機肥料で栽培した減農薬米と、無農薬米があります。

エスコープ大阪では、田植え、草取り、稲刈り、子どもツアーなどで、毎年多くの組合員が産地を訪問し、生産者と交流しています。また、『GMOフリーゾーン宣言』を日本で最初に実施するなど、GM(遺伝子組み換え)反対運動や環境問題など、様々な活動とともに取り組み今年で30年になります。今回は「針江げんき米栽培グループ」初代会長の石津文雄さんにお話を伺いました。

(聞き手:理事長 北辻美樹)

北辻 1990年頃の泉北生協(現・エスコープ大阪)は山形県の『上和田』と『立川』のお米を産直交流米として取り組んでいましたが、年間通して田植えや稲刈りなどで交流できる近場の産地を探していました。泉北生協との出会いの頃のお話を聞かせてください。

北辻 2005年1月29日「針江げんき米栽培グループ」が日本初の「GMOフリーゾーン宣言」をおこない、農地に3畳ほどの大きさの看板が掲げられました。これを契機にこの運動は多くの生産者に拡がりを見せ、2019年2月現在、国内におけるフリーゾーン登録面積は農地9万9千189・37ヘクタール、海12万6・74ヘクタール、牧場292・10ヘクタール、森林4千385・85ヘクタールになっています。

日本で初の
「GMOフリーゾーン」宣言を針江で

石津 新旭町役場の職員(エスコープ大阪元専務理事、川島三夫さんの兄)が、有機栽培で米作りをしている「針江有機米栽培グループ」(のちに「針江げんき米栽培グループ」を泉北生協に紹介してもらったのが泉北生協との出会いです。当初米委員会の組合員から「無農薬・無化学肥料でコシヒカリを作ってくれませんか」との相談を受けました。「安心・安全なお米を家族に食べさせたい」と言われる方が多く、自分の家族の健康を配慮されたことだと思いましたが、その後対話を重ねていくうちに、「私たちが農薬使用のお米を食べてもその被害は微々たる残留農薬です。でも生産者は農薬を散布することで被曝してしまう。一番の被害者は生産者です」と、私たち生産者のことも思う提案であったとわかり、こんな考えを持つ消費者がいるのだと驚きました。

石津 当時私たちのグループですすめていた生物の多様性で成り立つ環境保全型の農業と、新たに登場したGMO技術は相いれないということもあり、泉北生協からの呼びかけに答えグループとしてGMOフリーゾーン宣言を行うことになりました。私たちは泉北生協と出会ってから、成長する機会をいくつも持つことができました。せっけん運動では組合員が講師となって針江で学習会を開催し、せっけんハミガキを使って合成界面活性剤の悪影響を実感できる実験などをしてきました。その後は私たちが小学校で同じ実験をおこなうなど地域を巻き込んだ活動ができました。GM反対運動も、組合員の皆さんと社会の問題を共有することで知り得たことです。消費者とともに持続可能な産地づくりをすすめることができている一例ではないでしょうか。

北辻 石津さんはGM反対運動だけでなく、環境

田んぼに行って体験して
わかることを大切に

北辻 現在はお長男の石津大輔さんがグループの代表をされ、私たちがともに運動をすすめている「たねと食とひと@フォーラム」の共同代表も務めておられます。お米を通して食と環境を守る運動をこれからも一緒にすすめていきましょ。

※GMOフリーゾーン…遺伝子組み換え作物(GMO)を栽培しない、させない地域のこと。



日本で第1号の「GMOフリーゾーン宣言」。『針江げんき米』の田んぼに大きな看板を掲げた。(2005年1月)



針江げんき米栽培グループ
石津文雄さん

ウィズコロナ時代を乗り越えるために 改めて見直した共同購入

～コロナ禍を経験し、私たちが行動すること～

新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミック(感染症・伝染病の世界的な流行)により、私たちの生活は一変しました。2020年2月末には首相が全国の小中高校に臨時休校を要請。4月には政府による「緊急事態宣言」がおこなわれ、思わぬ非常事態に今までの「当たり前」が当たり前でないことを実感した方も多いのではないのでしょうか。現在第3波の渦中であり、今後も健康被害に加え私たちの暮らしに与える影響は計り知れません。エスコープ大阪としてこれからの共同購入のあり方や消費の仕方についてより一層、組合員みなで考え行動していく必要があります。

改めて感じた「エスコープ大阪でよかった!」
しかし…

新型コロナウイルス感染拡大とともに市場ではさまざまな物が品薄状態になり、特に輸入に頼るマスクが大幅に不足、食材や日用品の買いためなど大変な混乱がありました。全世界的な流行のため、あらゆる国で自国優先となり、輸出制限がかけられるのも当然のことといえます。エスコープ大阪では通常供給の1.4倍の受注がある過がでるなど物流機能や配送機能がひっ迫する事態が起きました。このような中、他生協でも欠品が相次いだと聞きます。度合は違えど私たち生活クラブグループも例外ではなく、紙製品や小麦製品(スパゲッティやホットケーキミックスなど)を中心に欠品が続きました。

私たちの消費材は生活クラブオリジナルのものが大半で、年間契約を交わすことで生産者は事前に原材料を確保していたため、ある程度の利用増加には対応可能でした。しかしスパゲッティなど計画

的に製造し製品在庫を持ちながら回す消費材は製造が追いつかず欠品になりました。また製造や育成に長期間かかる味噌や醤油などの発酵食品や畜肉類は企画調整が必要になる可能性が出ています。今回のことで私たちは、困った時にだけ利用(調達)をしようとしても必要な食料が手に入らない現状を明確に突き付けられました。

一方、再認識できたこととしては、社会が混乱する中、共同購入の仕組みとして配達があることは、とても安心ができて心強いことでした。その仕組みを維持するために提携生産者は生活クラブの消費材生産を最優先にしてくれました。そして、職員組織が過重な状況にも対応し、業務をすすめたことは、組合員として感謝することのひとつです。欠品などについて一部では苦情があったことも事実ですが、おおぜいの組合員の協力があつたからこそ大きな混乱もなく事業を継続できたと考えます。

持続可能な生産と消費のカタチをつくるものは何か

私たちは、食料の安全保障という意味でも国内自給力を高めていくことが大切であるとの姿勢で生協運動・事業をすすめています。世界情勢の変化による影響や大規模災害などが起こるたびに、市場から品物が一斉に消えることを経験し、日本の危うい豊かさを実感しています。今後ウィズコロナの時代にあつて、持続可能な生産と消費をどう考え、行動するのが問われています。

これまで私たちが求め生産者と共につくってきた消費材は、つくる約束と食べる約束を交わして成り立ってきました。食べものは昨日今日できるわけではなく、食卓に届くまでに生産現場や流通の仕組みの中でそれぞれに必要な時間があります。生産者と食べる約束をして提携が成り立ちますが、その約束をするのは長いもので2年かかるものがありますし、飼料の調達においては5年の長期契約をするものもあります。そして約束する内容について大きく影響するのはその時とそれだけの組合員が利用しているからです。今の組合員の利用の仕方は将来の自分たちの消費内容(食べることができているか)につながります。そのことを理解して今

今回再認識した共同購入の良さをまわりに伝え おおぜいの参加をひろげよう

これまで組合員がつくってきた共同購入という生産と消費の仕組みを、おおぜいの参加で維持・拡大していくことが必要です。そのためには「欲しいときだけ」「困ったときだけ」ではなく、組合員一人ひとりが日ごろから

を行動することが必要です。必要な食料をより持続可能なカタチで購入すること、どこで日ごろ食料を購入しておくのが問われます。

IPCC報告の特別報告書 ―世界飢餓人口は8.2億人―

ジュネーブで会合を開いていた国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)が、温室効果ガス排出削減効果が十分に進まなければ、気温上昇などによる食料生産へ悪影響が拡大し、2050年に穀物価格が最大23%上昇する恐れがあり、食料不足や飢餓のリスクが高まるとの特別報告書を発表。(以下、抜粋)

世界の陸域の気温は産業革命前より1.53度上昇。陸地の平均気温は、陸と海を含む地球全体の2倍近いペースで上昇している。

- ・将来は熱波の頻度が増し、地中海沿岸や西アジア、南米などで干ばつが増える。他の場所でも干ばつ、砂漠化、山火事、害虫の発生、土壌侵食、永久凍土の溶解などを引き起こす。
- ・食料価格に関しては、温暖化により2050年に穀物価格が最大23%上昇し、食料価格も高騰。貧しい人が最も深刻な影響を受ける。
- ・世界の気温が3度上昇すると干ばつなどの被害を受ける人口は、1.5度上昇時の1.5倍に。
- ・乾燥地帯では、砂漠化などで作物と家畜の生産性が下がる。
- ・水不足や干ばつにさらされる人口は、産業革命前と比べ、今世紀末に気温が1.5度上がる場合は2050年までに1億7800万人、2度上がる場合は2億2000万人に上る。

主催:(一社)市民セクター政策機構・(特非)「環境・持続社会」研究センター(JACSES)、協賛:生活クラブ連合会
オンライン連続セミナー第2回「コロナ禍における協同組合の価値」(株)資源・食糧問題研究所 柴田明夫代表の講演資料より抜粋

計画的に消費材を利用することが大切です。コロナ禍を機に、私たちが実感しているエスコープ大阪の共同購入の強みをまわりの人に伝えて、おおぜいの食べる力で真の持続可能な生産と消費をつくっていきましょう。

泉州地域
秋のおさそい
推進月間
取り組み
2020年10月～12月

泉州地域理事
山路 登葉

エスコープ大阪は今年度1600名の加入を目標に、10月から12月は「秋のおさそい推進月間」として、各地域で企画参加者10名以上を目標に組合員拡大企画を実施しました。



泉州地域で人気のあった「調味料セット」

子育て世代を巻き込んだ
秋のおさそい推進月間
取り組み

標の10名以上には届きませんでした。仲間が増えれば私たちの運動や消費材を今後も維持継続できる」ということを企画参加の呼びかけを通じて組合員に伝

今年度は新型コロナウイルスの影響で、予定していた生産者コラボ企画の開催を中止し、お友達を誘ってエスコープ大阪の消費材を試食し、アンケートに答えてもらうという企画に変更しました。試食は調味料セット(ケチャップとマヨネーズ)かお菓子セット(ラムネとゼリー)のどちらかを選んでもらいました。消費材の説明チラシを同封しました。エスコープ大阪は化学調味料を使用しない、可能な限り国産のものを大切にしている、遺伝子組み換え食品に反対していることなどを伝えました。

泉州地域の企画参加者は6名と、目でいききたいと思えます。

店舗地域準備会
消費材モニター
企画
2020年11月7日(火)
エスコープ大阪城山台Do
(堺市南区城山台)

組織担当常務理事
糸川 江里子



店舗地域準備会では地域委員会設置に向けて、まずは店舗組合員とつながろうと、今年の4月から交流の場としてカフェ企画を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により開催を中止しました。コロナ禍のなかでも、店舗組合員とつなが

店舗地域準備会と店舗組合員をつなぐ
「消費材モニター企画」が始まりました！

小さな子どもが口にするものは、母親が選ぶものが大きく影響します。私と同じように小さな子どもを持つお母さん達が食について考え、エスコープ大阪に加入するきっかけになれば嬉しいです。今年度のおさそい推進月間は終了しましたが、今後も日常生活の中でエスコープ大阪のことを周囲に伝えていききたいと思えます。

るにはどうすればいいのかを考え、消費材を共通の話題にして話をする機会をつくる「消費材モニター企画」を開催することにしました。準備会から電話で声かけをして4名の参加者が集まりました。

大阪市南・中河内地域
地域チャレンジ

2020年5月～
(大阪市住之江区
望月さんの畑)

大阪市南・中河内地域
地域委員 荒木 百光子

地域チャレンジに向けて取り組み始めたのは2019年3月。チャレンジ野菜を栽培してもらおう生産者を決めるために、地域エリアの菜食ファーム生産者の畑を訪問して、土壌の特質を聞き取り、地域チャレンジへの協力を依頼しました。その後、地域ニュースで地域組合員の意見も聞き取ってチャレンジ品目を選定したり、供給規格や進め方について地域委員会で協議を重ねるなど、1年をかけて取り組みをすすめてきました。その結果、菜食ファーム生産者の望月さんと一緒に、水が引きやすい砂地質の特質を生かした「さつまいも」をチャレンジ品目として栽培することに決定、2020年5月定植を開始し本格的にスタートしました。



今秋、地域チャレンジの
美味しいさつまいもを
供給しました！

こころ、13名の組合員から参加申込みがありました。しかし、コロナ禍で組合員の産地訪問を中止したため、畑作業の参加は出来ませんでした。

望月さんとの交流を目的に、さつまいも栽培の畑作業に定期的に参加してもらいたいと地域組合員に呼びかけたと

第1回のモニター
消費材は「(株)紅葉堂」
の『DORAYAKI
マスカルポーネ』に決定し、城山台Doの店舗入り口で時間を決めて1人ずつに手渡しして、1週間以内に試食してもらい準備会から電話をして話をしました。紅葉堂は、国産原材料を使い添加物の削減に取り組む生活クラブ組合員の活動を理解して一緒に消費材開発に取り組んでいる生産者であることを伝えました。参加した店舗組合員からは添加物に関心があり消費材の包材の表示をよく見ていることなど話してくれました。準備

会からは、生活クラブの添加物の情報開示をしていることを伝えました。消費材モニター企画は今年の2月まで全4回の企画です。あと3回のモニター消費材の選定や、モニター組合員とつながりを持ち続けるためにはどうしたらいいか話し合っています。

2021年度は、組合員が自分たちで企画の内容を提案したり疑問に思うことを調べたり話し合える「エスチャンネル」企画を予定しています。エスチャンネルにも参加してもらえたらうれしいです。

私たちの生産者

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。

<第17回> 株式会社マルモ青木味噌醤油醸造場 代表取締役社長 青木 幸彦さん



物心ついたころから家業の後継ぎとして育てられた青木さんは、味噌づくりは休みがなく、工場も古い、労働環境が悪いというイメージで「味噌屋なんて絶対に継がない」と思っていたそうです。大学卒業後に全く違う業種の会社に就職されましたが、大学時代に知り合った奥様との結婚の条件は、故郷の長野に帰り父の望む結婚式を挙げることでした。その条件を受け入れ家業を継ぎ、お父様とはよくぶつかられたそうですが、生活クラブの人たちと関わり多く、そのことを教わり、励まされながらこれま

お気に入りの味噌汁の具はシンプルに豆腐とわかめ。「みなさんも味噌汁を飲んで元気に過ごしてほしい」とおっしゃっていました。

紹介します!!
うちの地域の
組合員さんです



子どもに
安全・安心なものを
食べさせたくて

上田 幸美さん
[南河内地域]



上田さんのお気に入り消費材「ポーククインナー」

上田さんは加入歴1年余りの新しい組合員で、7歳と5歳のお子さんがおられます。上田さんがエスコープ大阪を知るきっかけになったのは職場で一緒だった組合員でした。もともと食の安心・安全について、強い関心を持っておられた上田さんが、「農薬や添加物の心配をせずに食べられる食材が欲しい」と話したところ、同僚の組合員から「今ちょうどお友達にエスコープ大阪で扱っている食べ物か他とは違う」ということを友達に紹介するた

「あつという間に1週間が過ぎてしまつので、注文を忘れること

ました。そこで、「(株)ミサワ食品」の消費材(お菓子)について、生産過程や流通まで詳しい説明があり、市販品と食べ比べを

エスコープ大阪 2020年度方針



協同組合の価値を認識し、 大きな視点を持って、より身近な課題への行動を

生活クラブグループのシンクタンクである「(社)市民セクター政策機構」と「(特非)『環境持続社会』研究センター(JACSES)」主催のオンライン連続セミナー「コロナ禍における協同組合の価値」が5回にわたって(2020年9月～11月)おこなわれました。エスコープ大阪では理事・委員研修に位置づけ、協同組合としてエスコープ大阪が取り組むべき視点の共有と、これまで進めてきた政策を継続する重要性をあらためて認識する場を持ちました。

第1回の古沢広祐さん(國學院大學)

研究開発推進機構客員教授)から、新自由主義による経済構造は、コロナ禍により雇用や差別、弱者切り捨てなど社会情勢の悪化を招き、デジタル化による管理社会や巨大ハイテク企業とAI(人工知能)が支配する未来予測などにあって、世界人類の分断が連帯が、自己中心主義か利他主義かなど未来への大転換点となる今、押さえておくべき視点を教えていただきました。

第2回の柴田明夫さん(株資源・食糧)

問題研究所代表)のお話では、輸出前提での単一生産体制(モノカルチャー)は自国優先となる世界同時危機下では機能せず、また地球過熱化による生産の不安定さはますます深刻になることがわかりました。世界の食料は90%以上を家族経営の農家が生産しており、協同組合(生協や農協)による産地政策が大変重要になります。

第3回の三浦展さん(消費社会研究)

家/評論家)のお話では、人々の消費行動は、よりケア的(個的)になっており、若い時の生活をその後も維持する傾向が強く、現若年層の低所得化は日本の将来の消費動向を決定づけることでした。都市一極集中から郊外型居住志向の増加や、シェアハウス利用の増加は個人化された生活の中で進んでいますが、女性・子育て・シェア・介護という視点で働く場づくりも含めた人とのつながりをつくる事例紹介がありました。

第4回の田中夏子さん(長野県高齢)

者生活協同組合理事長)のお話では、ワーカース・コレクティブはこれまで社会的サービスの重要な担い手として機能してきたが、コロナ禍ですます重要度を増しているとのことでした。事業的には脆弱であるため、事業規模の大きい協同組合はエッセンシャルワーカーとしてのワーカース・コレ

第5回の和田篤也さん(環境省総合)

環境政策統括官)からは、コロナ禍も含め地球過熱化による生活環境や生産環境の危機は私たちの生活からもたらされておき、経済社会を描きなおすことで地域ごとの特性を生かした「脱炭素社会」「循環経済」「分散型社会」である地域循環共生圏(RFEC)自給ネットワークの構築は可能であるとのことでした。

社会への問題意識から取り組んできた私たちの活動の重要性を再認識したのと同時に、協同組合としての機能をよりいっそう発揮させていかなければいけないとあらためて感じました。各セミナーでのお話を参考に今後の政策・方針をつくり、おおいの参加ですめていきたいと思えます。

理事長 北辻美樹



第6回 理事会報告 <12月2日>

【10月度決算報告】

- 供給高 2億2,763万円(前年同月比126.4%)
*配達日数は2日多い。
- 組合員数 19,198名(前月比+70名)
- 一人当たりの出資金 83,941円

【11月の放射能検査結果】

11月は連合消費材737検体、関西消費材1検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①2021年度方針骨子と基本方針の具体案
- ②2021年度エスコープ大阪総代会(改選期)までのスケジュール
- ③温州みかんシーズン予約取り組みまとめ
- ④7月生活クラブでんき推進月間のまとめ
- ⑤エッコロコーディネーター設置について
- ⑥コロナ禍生活困窮者助成第3次募集
- ⑦2021年度のピオサボ取り組みの予算提案
- ⑧50周年オンライン企画の具体化について
- ⑨泉州地域チャレンジ品目「パプリカ」の生産者補填について
- ⑩泉州地域の地域チャレンジ取り組みまとめ
- ⑪泉北ニュータウン地域の地域チャレンジ取り組み実験供給の結果について
- ⑫常務理事会・理事会議案についての常務理事会見解

【報告承認事項】

- ①第二次生活クラブ2030行動宣言に向けた単協討議の提案
- ②2020年度オンライン食肉学習会実施報告書・開催運営報告書の提出
- ③第一次生活クラブ2030行動宣言レポート(アニュアルレポート改称)の制作

おたよりネット

「ripples」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

215号3面「今年もみかんを食べて、おいしい安全なみかんをつなげていこう」を読んで
紙面モニター Sさん

“おみかん”大好きで良く食べます。他にもりんご、柿、梨といろいろあり身体を考えて食べすぎに注意しながらも、ついつい手が出ます。大変な斜面での手作業。安心安全、そしておいしいみかん!!甘すぎず酸っぱすぎず、程よい甘さ、ジューシーさ。ひとりでも多くの“おいしい”の笑顔が集まればいいですね。

訂正とお詫び

216号表紙「御牧ヶ原林檎農場」のインタビュー記事で生産者(柏木さん)の伯母にあたる方が泉北生協の理事であったことが産直のきっかけと記載しましたが、組合員から違っているとご指摘をいただきました。再度取材録音を確認したところ「身内が組合員であった」ということでした。訂正しお詫びいたします。

編集後記

2021年が始まりました。昨年度は思いもよらぬパンデミックに見舞われ、予定していたことがことごとく変更を余儀なくされました。今まで当たり前に行っていたことが、どれほどの人に支えられて成り立っていたのかに気づき、改めて感謝することができました。今年も日常を大切に感謝を忘れず過ごしていきたいと思えます。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪
〒590-0151 堺市南区小代727
TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022
https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

50周年記念として初代組合員理事長(1973年～1982年在任)の山村瑞子さんが作られた多くの詩の中から生活協同組合についての詩を連載します。

山村瑞子さんの詩

農園野菜

どうしてそんなに急ぐのでしょうか
一月にいちご
二月にトマト
三月にかぼちゃ
四月にすいかなんて
トマトやキュウリに似合うのは
麦わら帽子
かぼちゃは夏の草いきれ
すいかは涼み台の食べ物
ゆっくり
いきましよう
急いだって八十年
ゆっくりいっても八十年
お日さまの光と
たい肥の土で大きくなった
ちしゃの葉も
霜が当たってうまくなる青菜も
にんげんのいのちのみなもと
ご先祖様の
知恵も生かして
てんねんしぜんを
たいせつにした食べ物
おいしく美しく
ととのえるのが
わたくしの仕事
祖母や母のように
忍従はしないけれど
台所は受け継いだ
わたくしの仕事です
ぬかづけのなすの紫や
梅酢につけた生姜のべには
わたくしよろこびのいろです

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメロで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
217号(2021.1.25)